

物語の世界にどう関わるか ぼーっとして、想像を膨らませて



阿川佐和子(エッセイスト・作家)

1953年、東京都生まれ。『聞か力』『強父論』など著書多数。スタジオジブリ作品では『平成狸合戦ぽんぽこ』『君たちはどう生きるか』に声の出演をし、『ちゅうずもう』では語りを担当。2015年より博物館明治村の村長を務める。

「ジブリパークを歩いて」の5回目はエッセイスト・作家の阿川佐和子さんです。愛・地球博記念公園(愛知県長久手市)内のジブリパークに初めて来園し、「ジブリの大倉庫」、「どんどこ森」、「魔女の谷」の3エリアを巡りました。スタジオジブリ作品で声の出演や博物館明治村(同県犬山市)で務める村長の経験も踏まえ、ジブリパークの特徴や在り方を独自の目線で解説しました。

とても素晴らしい散歩道。夕暮れ時が特におすすめ

これからジブリパークに来る人へのアドバイスです。まず、歩きやすい靴を履いてくるべし。歩いていると心地よい道が多いですが、結構な運動量になります。とても素晴らしい散歩道なので、お子さん連れにはもちろん、高齢者の方にもぜひ来ていただきたいですね。時間帯は午後から夕方がおすすめ。夕暮れ時の寂しさと「メリーゴーランド」(魔女の谷)の音楽、そしてジブリの不可思議な世界観がマッチしていて素敵でした。

おもしろいと思ったのは、公園とジブリパークがはっきり区切られているのではなく、公園の自然を利用してジブリがまぎれ込んだようなナチュラルなところ。歩いていると突如「ハウルの城」(魔女の谷)が現れてハッとします。

登場人物の仲間に入りたいたい

私は縁あって明治村の村長を10年ほどやっています。明治村は、建築物から、人々の暮らしや歴史、建物を建てた人々の思いを感じる事ができ、かつて生きていた人々の残したものが肌で感じられる野外博物館です。では、ジブリパークはどうかと考えた時、物語の世界が実際の大きさを表現されているのを目の当たりにして、「登場人物の仲間に入りたいたい」

という感覚が生まれます。

物語ってすごく大事。これは児童文学者の石井桃子さんや松岡享子さんに教えられたことなんです。物語に出てきた情報や知識ではなく、本を読んだあとに自分がどういう風にぼーっと妄想を膨らませるか、ということが実は大事な時間だと。ジブリもそれぞれの物語があって、どう関わりたいかと考えると、やっぱり仲間になりたいじゃない？ハウルの寝室を實際の大きさに感じて、「自分がここに住んでいたら」なんて想像力を膨らませてみたり。みなさんぜひ、ジブリパークではぼーっとしてください！

「わからない」が今の時代に大切だ

ジブリの大倉庫は、なんの解説もないところが気に入りました。今はあらゆることを懇切丁寧に教えずぎたいと思うんです。なんでもすぐに調べてすぐ回答が出てくるのが心よくなっています、「わからない」ということに対して非常に受動的。あまり感心しない時代ですね。もちろん明治村のように、学芸員の方にガイドされるとより興味深くなるということもあるけれど、なんでもかんでもわかりやすく説明することが人間の成長にとって大切なのは疑問です。興味を促すような解説は必要ですが、回答を渡すっていうのは違う気がしますね。



ジブリの大倉庫で「君たちはどう生きるか」に登場するインコマンとご対面

くるのが心地よくなっています、「わからない」ということに対して非常に受動的。あまり感心しない時代ですね。もちろん明治村のように、学芸員の方にガイドされるとより興味深くなるということもあるけれど、なんでもかんでもわかりやすく説明することが人間の成長にとって大切なのは疑問です。興味を促すような解説は必要ですが、回答を渡すっていうのは違う気がしますね。

今後、期待したいのは世界にのめりこませる工夫

ジブリパークでは、現実に近い「暮らし」が感じられたらいいなと思いました。例えば、魔女の谷の「ハッター帽子店」に、帽子を作る職人が本場にそこで働いていた、中庭でおじいさんたちが集まって飲んでいたりして旅人も巻き込んだり。もちろん管理上の問題もあるとは思いますが、この世界にのめりこませるために何ができるのか、ということ。看板や建物が『魔女の宅急便』に出てきたパン屋さんというだけじゃなくて、そこに入ると、キキの気持ちや、キキの友だちとして来たような気持ちかな、など想像できるような工夫があるとか。自分も物語の登場人物の仲間入りができたって思えるような、そういう場所になったら素敵だろうと思います。



「小人の庭」(ジブリの大倉庫)で「借りぐらしのアリエッティ」の世界を体験



「サツキとメイの家」(どんどこ森)の縁側でくつろぐ阿川さん

前回はガンバレルーヤさん。その記事はウェブサイトでご覧いただけます。



チケットは予約制